



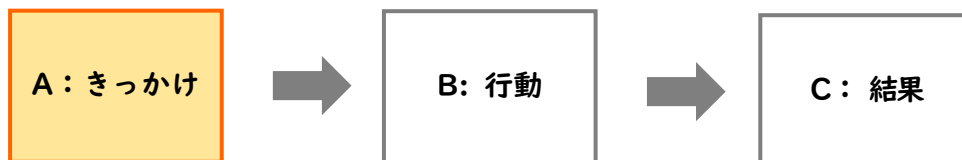
応用行動分析（ABA）を用いた行動支援

<応用行動分析> 行動の要因を目に見えない「ところ」ではなく「行動」に着目し、**行動の前後を操作すること**で行動を制御する方法。



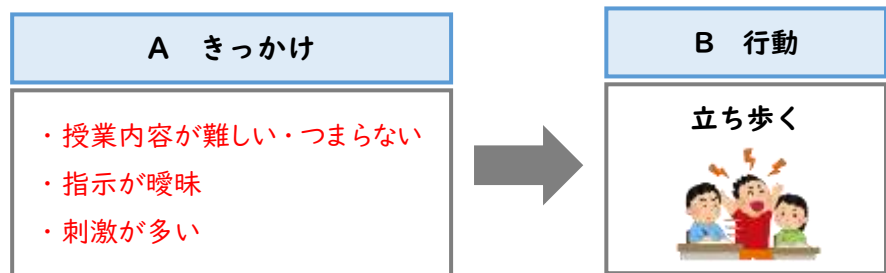
その1 行動の前を操作する

行動の前というのはABC分析で見ると、『A きっかけ』の部分に当たります。

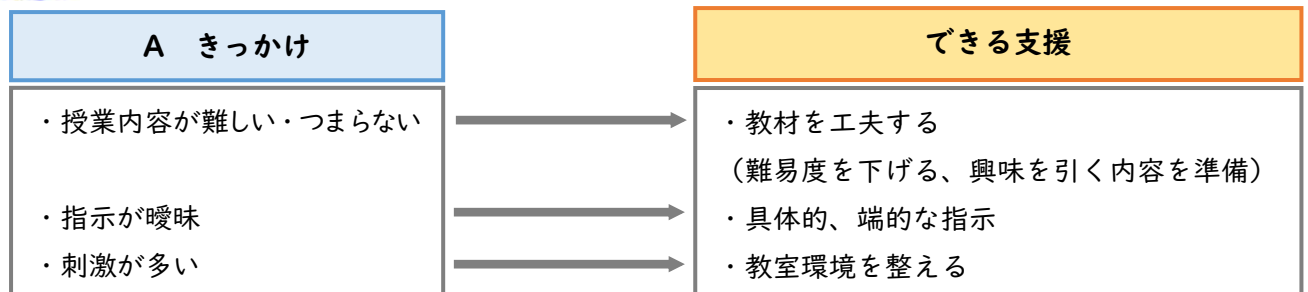


★例えば… 授業中に立ち歩いてしまう児童の場合

きっかけとして
考えられることは…



「A きっかけ」に着目した支援を考えてみましょう！



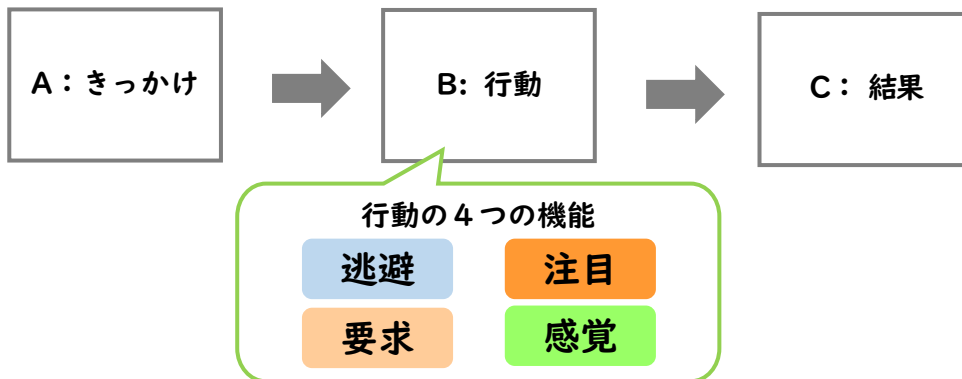
きっかけは様々な要因が考えられると思います。
児童生徒にとって1番大きな要因と考えられる
ものから支援していきましょう。

環境やきっかけを
工夫すれば、問題行動は
減るんだね！





その2 行動の後を操作する



「4つの機能」に着目した支援を考えてみましょう！

逃避

環境調整

- ・課題や活動の変更調整
(難易度の変更、量、参加時間)
- ・教室環境の変更調整
(掲示物、音、人の多さ、温度、湿度、席の場所)



注目

消去 (反応しない)

消去 ≠ 無視

- ・無視ではなく、**反応しない**。
- ・行動の前後に変化を起こさない。

適切な行動ができた時は、
注目し、強く褒める！



要求

スキルの獲得

- ・適切な要求の方法を教える。
- ★交渉することを教える
例) 「手伝ってください」「教えてください」「休憩したい」と言う。



感覚

環境調整

- ・やってもよい時間や場所を決める。
- ・あらかじめ感覚ニーズを満たしておく。

スキルの獲得

- ・代替手段を教える。
(スクイーズボール、バランスディスクなど)

4つの機能に基づいて支援することで、
行動の後の「C 結果」を変えることができます。

行動の機能を適切に
把握することが大切！



支援の Point

“強化”の原理

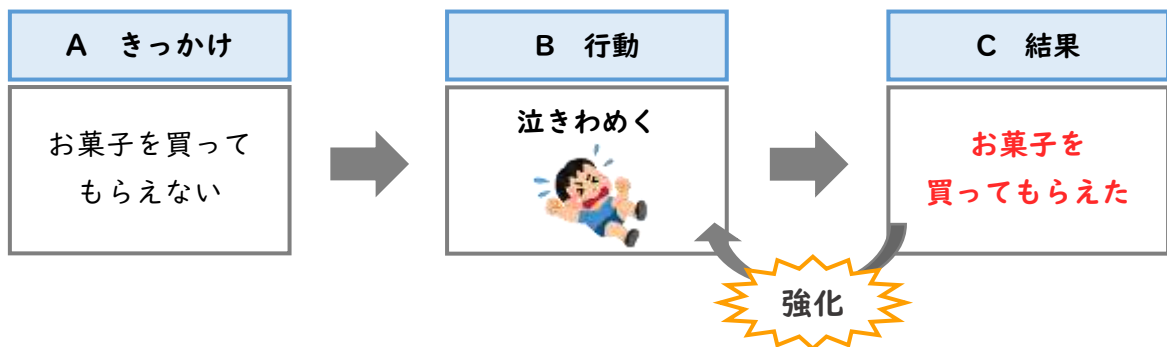
強化の原理とは…

★「B 行動」を起こし、「C 結果」によいことが起こると、**行動は増える！**

「B 行動」と「C 結果」にはある一定の法則があり、これを「**強化の原理**」と言う。


「C 結果」によって行動が継続して起こっている場合は、その行動は強化されたこととなります。

★例えば… スーパーでお菓子を買ってもらえず、泣きわめいている子ども



この場合、子どもは泣きわめくとお菓子を買ってもらえると学習し、その行動は継続します。

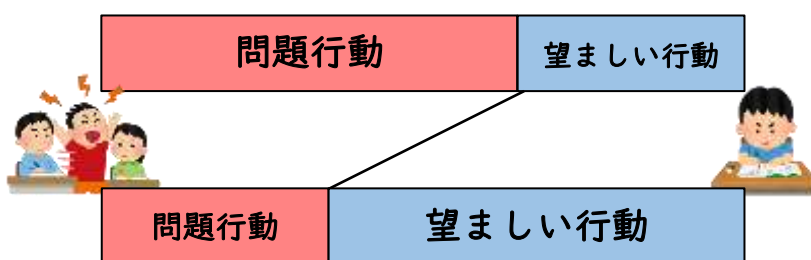
「泣きわめく」という望ましくない行動を強化させることとなります。そうではなく、「**望ましい行動**」を強化させることが大切です。

 スーパーでの例をもとに考えてみましょう。

B の行動で約束を守ると、C の結果としてお菓子を買ってもらえたとなると、「約束を守る」という行動は強化されます。このように**望ましい行動を強化し、望ましくない行動は消去しましょう。**

支援の Point

望ましい行動を増やす支援を！



問題行動と望ましい行動は同時にできない！

↓
「望ましい行動」を増やすと、問題行動は減る！



～行動支援の流れ～

- 【ステップ1】 行動の前を操作する。
ABC 分析の「**A きっかけ**」を工夫する！
- 【ステップ2】 行動の後を操作する。
「**逃避**」「**注目**」「**要求**」「**感覚**」の4つの機能に対する支援を行う！
- 【ステップ3】 支援方法を振り返りましょう！
 - 効果的→続ける、支援を徐々に減らす、注目する行動をステップアップ
 - ×逆効果→支援の方法を見直す、行動の機能を考え直す、注目する行動を見直す